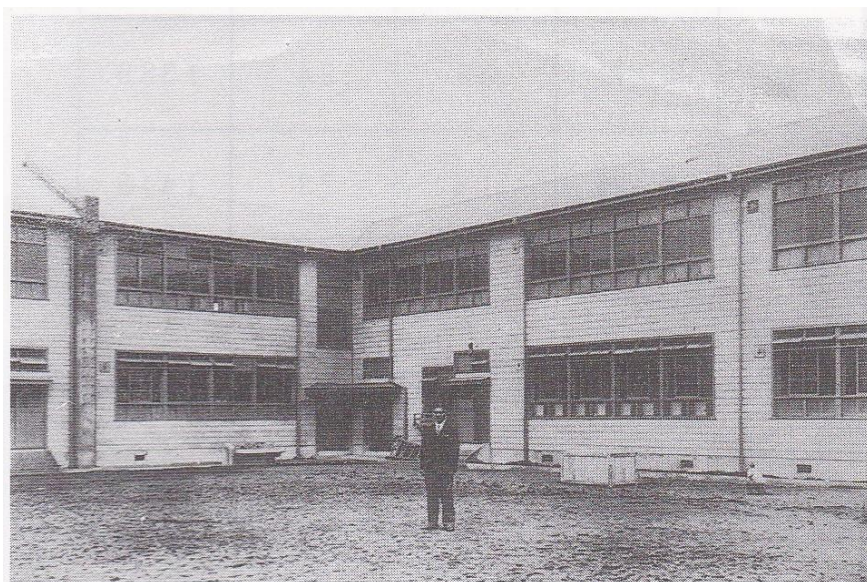


大田区立道塚小学校 80周年

80年前と現在の様子



校舎全景



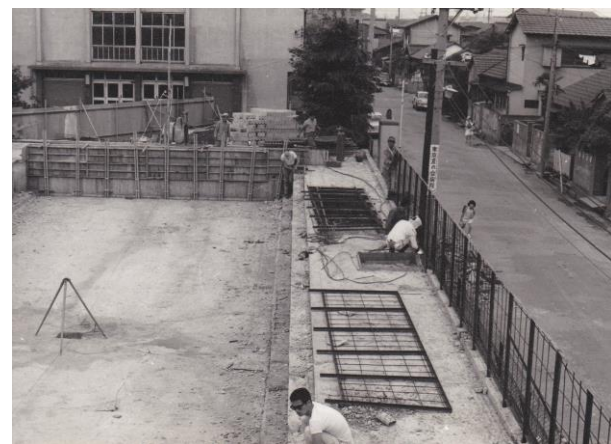
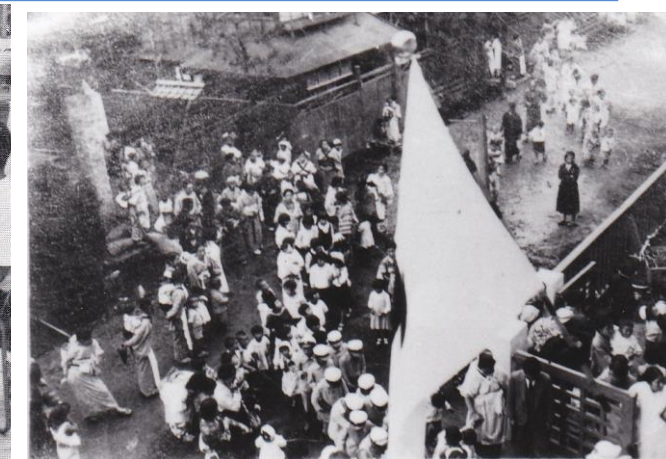
初代校長 瓜生 茂先生（校庭で）

1938年（昭和13年）



2018年（平成30年）

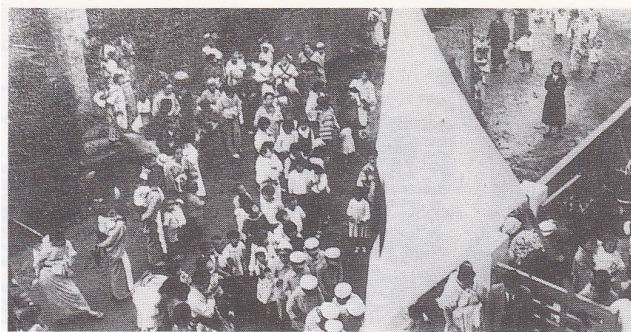
80年の間に、どんなことがあったのでしょうか。



道塚小学校の開校（昭和13年 1938年）



教職員記念撮影（開校祝賀会当日正門で）



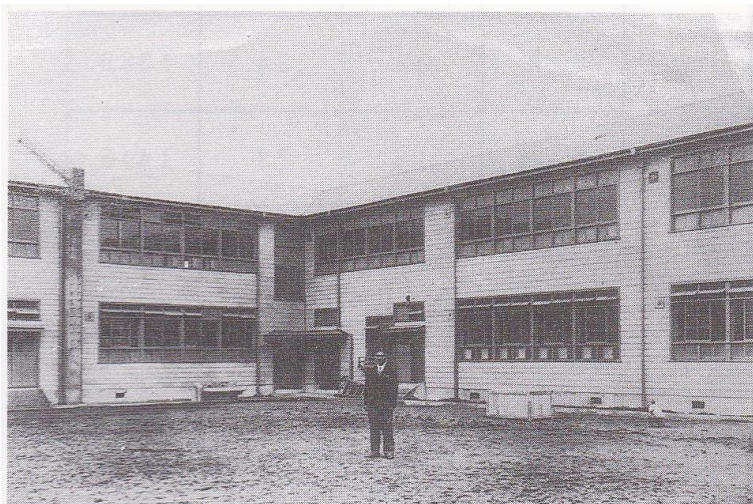
開校式当日の正門風景



開校祝賀会

関東大震災の後、矢口村は急に人口が増えました。道塚の人々はたいへん教育熱心で、道塚にも学校がほしいと願っていました。昭和の初め頃から、小学校を建てようとの声がおこり、昭和12年6月15日に、東京府から許しがおり、校名は「東京府東京市道塚尋常小学校」となりました。

昭和13年5月30日にF字型の2階建て24教室ができあがりました。6月10日に、開校式が行われ、5年生以下の子供たちが、矢口小、矢口東小、相生小、西六郷小より950名移ってきました。初代校長の瓜生先生は、「みなさんの道塚学校が、今日ただ今、誕生されました。みんな仲よく、よい道塚学校をつくりあげましょう。」と話されました。



初代校長 瓜生 茂 先生（校庭で）

校章の歴史



〈現在の校章〉



〈創立当時の校章〉



〈校章の基本型丸一^{まるいち}〉

〈校章の基本型丸一〉は、新田神社の紋章です。新田神社は、矢口村の人々にとって大切な神社でした。全体がまるいのは、協力、円満をかたどり、道塚小が矢口の学校であることを丸一で表しています。

〈創立当時の校章〉は、まわりが稲穂でかこまれています。昔、道塚村の一带には六郷用水がはりめぐっていました。この六郷用水を中心に水田が広がっていて、秋にはお米が豊かに実りました。この校章は、昔の道塚村の風景を表しています。

〈現在の校章〉いつの頃からか、基本型の丸一がなくなり、稲穂がガマの穂に変わり、今の校章になりました。

道塚行進曲



道塚行進曲 (瓜生先生作詞)
— 鉄道唱歌のメロディーで歌う —

一、紫匂う武蔵野の
東にかすむ蒲田区に
いらかは高くそびえ立つ
これぞ我等の道塚校

二、流れも清き多摩川の
強き力を友として
正しき道に進み行く
はげめ我等の道塚校

三、西に仰ぐは富士の嶺
純潔優しき姿こそ
我等の進む目じるしぞ
振るへ我等の道塚校

(紫は、昔、むさし野に
さいいた花の名まえです。)

出典 (70周年記念誌)

現在の道塚小学校には、立派な校歌がありますが、開校した当初は校歌がありませんでした。その代わりに、作られた学校の歌が「道塚行進曲」です。校庭でも家庭でも、いつでもどこでも声高く歌えるように、という思いから作られました。昭和13年、当時の子どもたちは、毎朝「道塚行進曲」を歌いながら、校庭を行進していたそうです。

作詞をしたのは、道塚小学校初代の瓜生茂校長先生です。「道塚行進曲」の歌詞は、正門入ってすぐ左の石碑に刻まれているものと、80周年を記念して新しく体育館舞台脇に掲示されているものとあり、現在の子どもたちにも歌い継がれています。

集団疎開（昭和19年 1944年）



集団疎開先での1日（富山県）

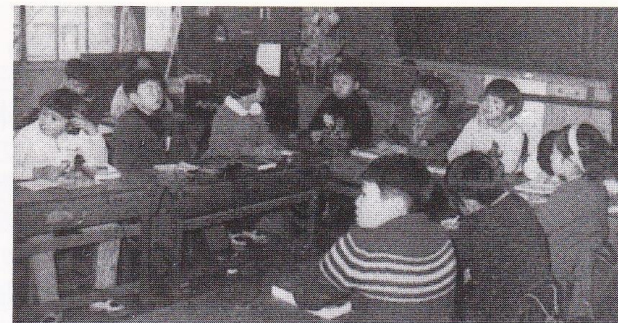
戦争の形勢が不利になってきた昭和19年8月31日、道塚小学校の3年生以上の子どもたちは先生に連れられて集団疎開の列車に乗りました。5年生は富山県へ。3・4・6年生は静岡県へ。昭和20年になると更に静岡県から秋田県、富山県へ再び疎開しました。食べ物や燃料も少ない中で、先生達も子どもたちも戦争に勝つまでは、と耐えてきました。

学校再建（昭和23年 1948年）

新しい校舎の建設のための活動の中心は募金活動でした。その頃はインフレで物価の値上がりに追いつけない経済状況の中、講演会・母の会・地域の方々の協力で建設工事が始まります。相模原の旧陸軍の施設を取り壊して馬車に積み、戦後初の校舎6教室が昭和23年2月25日に完成したのです。



代表委員会



学級会

校歌の誕生（昭和33年 1958年）



二部合唱

行進曲風に

あ おぼのにおい ひのにおい のぞみはたかく あおぐそら
ま なびの にわーに ともをよび
な かよく みんな うたおうよ
お みちづ かみちづ か小学校
お お みちづかみちづ か小学校

昭和33年、開校20周年目を祝って校歌が作られました。学校と家庭、子どもが心を一つに合わせて、良い学校、楽しい学校を築いていこうという願いを込めて、作られました。校歌の発表の際には、消防庁音楽隊の演奏に合わせて、1600人の子ども達の明るい歌声が、校舎にこだましました。道塚小学校の校歌は、小学校の校歌としては珍しい二部合唱となっており、現在も二部合唱で歌い継がれています。